

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第213号

ななえ古写真物語

VOL.213

災害のはなし

鳴川の氾濫とその後

昭和48年

鳴川地区



おそらく、誰もが近年の局地的な大雨に気候の変化を感じていることだろう。今年も全国各所で、大雨による冠水や土砂崩れといった自然災害が発生し、ニュースで伝えられている。その頻度は年々増加の一途をたどっているようにも思う。

七飯町は、斜面の中腹に市街地が位置していることもあり、大雨が降ると下方の平野部へ流入する。また、扇状地であることもあり、山野に浸透した雨水が、地中をとおり、標高の低いところへと集まる傾向があり、意外と大雨による災害が発生しやすい場所である。ちなみに、今年の8月と9月にも、大雨による冠水があったばかりである。

上の写真は、昭和48（1973）年9月1日に発生した豪雨によって、鳴川が氾濫し、その対応をしている様子を撮影したものである。また、2日後となる9月3日にも、大雨に見舞われ、家屋の床上浸水や道路の決壊、田畑への流水など被害は甚大で、七飯町を含む渡島支庁管内だけでも、被害総額10億円以上となったと、被害状況写真とともに『広報ななえ』1973年9月号に記載されている。

写真では、氾濫の被害を少しでも抑えようと、刈（かます。ワラ製のむしろ袋のこと）を積み上げているのだが、現在であれば土嚢袋などを使用するので、時代の差を感じてしまう。

鳴川に限らず、七飯町では河川氾濫が多かったことが記録されている。例えば大中山地区を流れる大川は、昭和32年以降、雨量が100mmを超えることが度々あり、河岸が決壊して果樹園や水田に甚大な被害を与えていた。そのため、北海道庁の林務部が、治山ダムを設置したものの、昭和36年の豪雨により堤防が決壊し、再び被害に見舞われた。さらに翌年にも、台風による集中豪雨によって、大川は各所で決壊し寸断され、未曾有の被害となった。

これを受け町は、北海道や国に対し災害復旧の申請と陳情を繰り返した結果、河道の改修、護岸、河川勾配の緩和、上流部への治山堰堤の増設が認められ、「大川災害関連事業」という名称で4ヵ年計画の復旧工事が行われた。以降、大中山地区において、甚大な洪水被害は、ほとんど起きていない。

さて、写真で紹介した鳴川の氾濫の後、護岸（第二鳴川）などを行い、以降の被害は小さなものに収まっている。現在、七飯町の河川のほとんどが、砂防ダムやら護岸が施され、人々が安心して暮らせるようになったが、それでも、災害は発生する。町役場では現在、豪雨災害への対応のため、土嚢づくりや土砂の除去作業などを行っているが、土砂の廃棄場所や、未然に防ぐ方策など、災害を乗り越えた歴史によって培われた知恵が、今なお試されている。

7日 夜の博物館第3夜

「環境破壊は誰のせい？」をテーマに講師にお招きしたのは、自然保護監視員の金澤晋一氏です。このテーマを伝えることに、随分と苦労なされたそうです。近年多いヒグマの出没とその生態について、メガソーラーの森林伐採など、身の周りで起きているさまざまな例をもとに、見方がちがうと考え方もちがうので、だれかの考えの真似をするのではなく、自分で考えることや、足もとの自然をよく見ること、自然が寄りそっていく生活をおくることの大切さをお話いただきました。だれかの声がだれかを変えていく。心に刻まれる講座でした。



20日 ジュニア探検クラブ

この日は朝から雨でした。子どもたちと訪れたのは、大船遺跡と縄文文化交流センターです。そう、この日は一日「縄文の日」でした。解説を聞きながら、質問をし、自分たちの疑問を次つぎに聞く子どもたち。現代とは、大きく異なる暮らしに、興味をもったようでした。縄文文化交流センターでは、拓本の体験もしました。好きな土器片を選び、使ったことのない道具に、戸惑いながらも、根気よく続け、きれいに仕上げることができました。



テーマ展示の準備で思うこと

写真は、東大沼でマイクロプラスチックを採取しているところと函館新道の側道(藤城近辺)でゴミを拾っている様子です。25センチ四方で深さは1センチほどから採取した砂には、思っていたより、マイクロプラスチックがありました。周遊道路を走っているだけでは、見えない現実におどろき、ゴミを拾うたった100メートルの範囲に、人間のエゴを強く感じた時間でした。開催中のテーマ展では、顕微鏡でマイクロプラスチックを観察することができます。



1	水	テーマ展開催中
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	休館日
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	スポーツの日
14	火	休館日
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	ジュニア探検クラブ
19	日	
20	月	休館日
21	火	ピチャリ第214号発行
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	町民文化祭
26	日	町民文化祭
27	月	休館日
28	火	
29	水	
30	木	テーマ展最終日
31	金	

※休館日：6日、14日、20日、27日

押切(おしぎり)

薬すやる牧草などを切
す料や員、敷、糞、断
業に、使、用、し、た、作
指を、怪、我、す、る、こ、も
あ、っ、た、そ、う、す、。



編集後記 ~tawagoto~

一昨年の企画展「つつむ」の展示以来、歴史館職員でじわじわ集めているのが、レトルトカレーの箱や駅弁の掛け紙、書店のブックカバーなどだ。一度集めだすと、やめられなくなる、その魅力とはいったいなんだろう。個人的に数を増やしているのは、書店のブックカバー。「書皮」と呼び、愛好家もいるらしいと知った。本を読む人口が減っていると聞いて久しいが、ブックカバーをもらうための書店めぐりも楽しい。蒐集はしばらくやめられない。

Pichari ~ピチャリ~

第213号

令和7年(2025年)9月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp